

JIIMA第8回ECM研究会

JIIMA

<http://www.jiima.or.jp>

<http://www.ecm-portal.jp/>

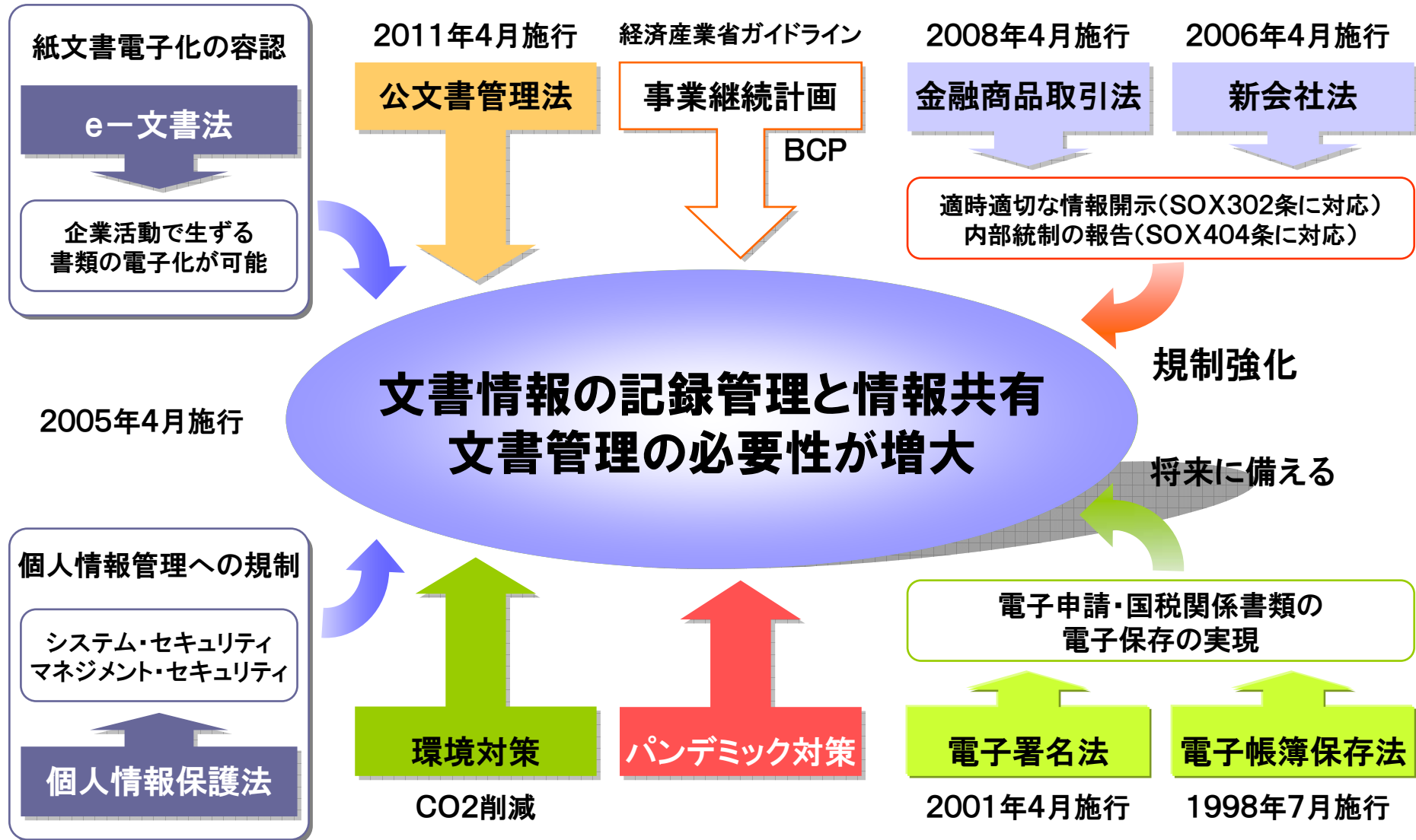
ECMは環境問題を救えるか？ 本日の研究会の目的

2010年8月27日

社団法人 日本画像情報マネジメント協会
ECM委員会 委員長 梅原 寿夫

企業を取り巻く社会環境の変化

Source JIIMA ECM © 2009



コンテンツ管理の目的

企業価値の向上

将来

環境対応

BCM/BCP
(事業継続)

将来

2008

現在

内部統制
(コンプライアンス、透明性)

2005

セキュリティ(個人情報管理など)

経営効率の向上
(Cost, Collaboration, Customer Relationshipなど)

Source JIIMA ECM © 2008

グリーンオフィスとは？

Green Office グリーンオフィス

オフィスの環境負荷の削減や環境への配慮により、オフィス環境から地球環境の保全を目指す動き。

Green IT グリーンIT

PCやサーバ、ネットワーク機器などに必要な電力や二次的に発生する温室効果ガスを削減し、地球環境に優しいIT環境を目指すこと。
IT活用によるオフィス環境のエコ化を推進すること。

Green OF IT

ICT機器の電力消費によるCO2排出を削減

Green BY IT

ICTの活用で業務効率化を実現し、資源、エネルギー利用によるCO2排出を削減

Eco Office エコオフィス

LEDライティングシステムや省エネ空調システムなど、オフィス環境のエコ化による環境保全を目指す。

Paperless ペーパーレス化

業務効率化やコスト低減の取り組みの一環として、紙への印刷やコピーを極力減らすこと、請求書などの紙証憑の電子化により、紙の印刷や保管にかかるコストを抑え、効率的な業務の遂行を目指す。

※ 紙資源の保全や電力節約による環境への貢献

ITへの環境に対する要求の高まり

- **Green OF IT :**
ICT機器の電力消費によるCO₂排出量を削減する
- **Green BY IT :**
ICTによる業務効率化で資源、エネルギー利用によるCO₂排出量を削減する

環境に配慮したITを選定

ペーパーレス化

物の消費

人の移動

物の移動

オフィススペース
効率化

物の保管

業務効率化

- 文書、帳票の電子化による効率化
- スペースの削減
- BCP、ユビキタス環境
- e-文書法による法定文書の電子化保管

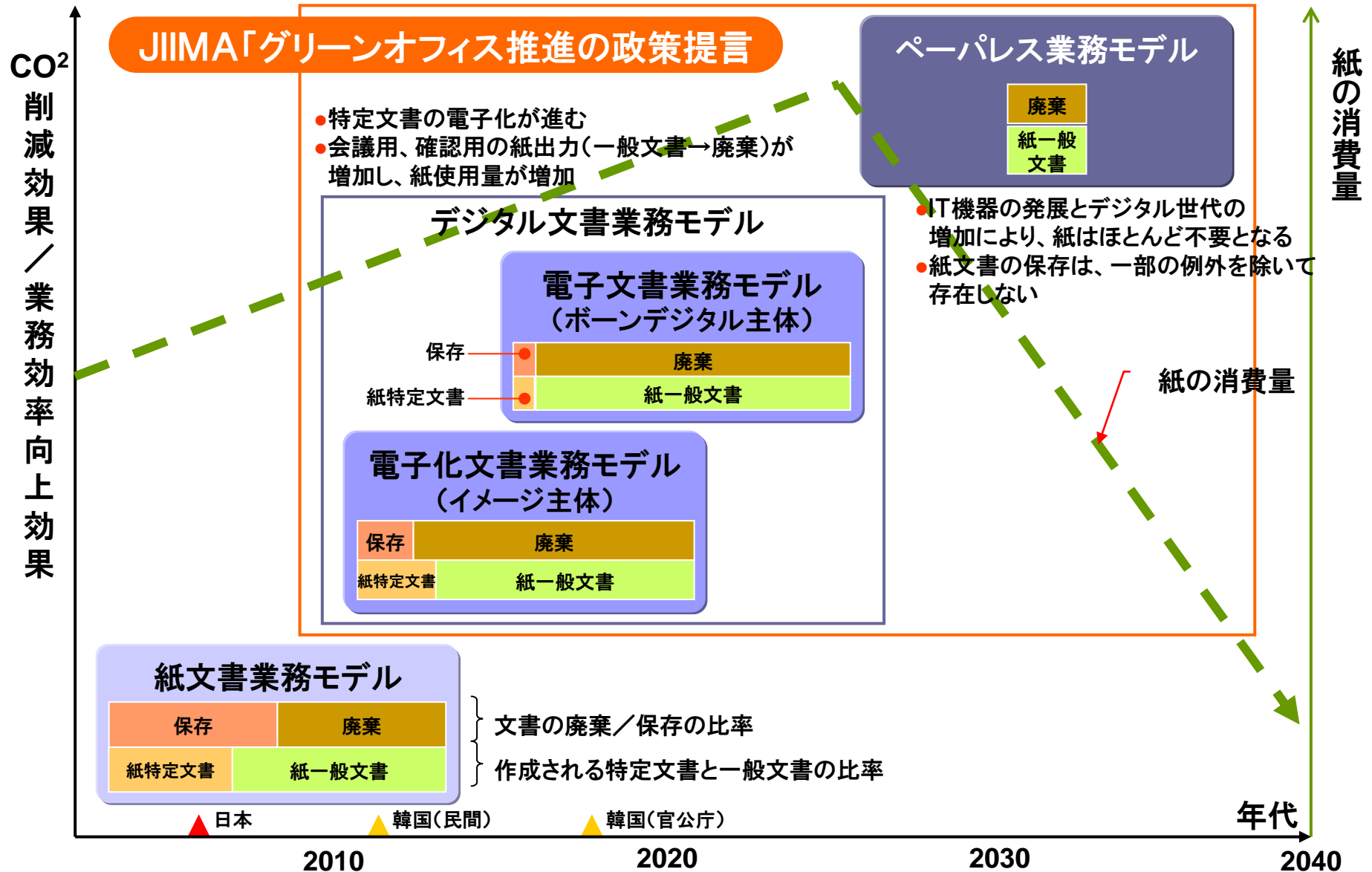
表 1 環境チェックリスト (ICTの仕組み・技術を取り入れる)

目的	チェック項目	説明
環境に配慮したICTの仕組み・技術を取り入れる	ICTシステム導入により、物の消費量(紙の消費量など)が削減できますか 物の消費	物の消費量を削減することにより、物の生産・廃棄等にかかるCO ₂ 排出量や廃棄物排出量の削減を図ることができます
	ICTシステム導入により、電力・エネルギーの利用が効率化できますか 電力消費、エネルギー消費	電力やエネルギーの利用を効率化して消費量を削減することにより、発電・送電等にかかるCO ₂ 排出量を削減することができます
	ICTシステム導入により、人の移動が削減できますか 人の移動	人の移動を削減することにより、輸送の交通手段に要するエネルギー消費量を削減し、CO ₂ 排出量を削減することができます
	ICTシステム導入により、物の移動が削減できますか 物の移動	物の移動を削減することにより、輸送の交通手段に要するエネルギー消費量を削減し、CO ₂ 排出量を削減することができます
	ICTシステム導入により、オフィススペースの効率的な利用が図られますか オフィススペース効率化	オフィススペースを効率的に利用することにより、照明や空調等の電力消費量を削減し、CO ₂ 排出量を削減することができます
	ICTシステム導入により、物の保管スペースが削減できますか 物の保管	物の保管スペースを削減することにより、照明や空調等にかかる電力消費量を削減し、CO ₂ 排出量を削減することができます
	ICTシステム導入により、業務効率化が図られますか 業務効率化	業務効率化により、資源・エネルギー消費量を削減し、CO ₂ 排出量削減等を図ることができます
	ICTシステム導入により、廃棄物の排出量が削減できますか 廃棄物	廃棄物の排出量を削減することにより、環境保全と同時に、廃棄物の処分等に要するエネルギー消費量を削減し、CO ₂ 排出量を削減することができます

総務省 ICTを環境にやさしく活用するために

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2007/pdf/070406_1_1.pdf

業務モデルの発展段階



グリーンオフィスの推進

現
状

紙文書 業務モデル

紙で全業務を実施。ワークフロー等ITが業務支援に導入されているが、特定文書はほとんど紙。

業務プロセス

N日
順次実行

(N+1)日

紙か人が移動して業務遂行

- ・移動コストと時間が無駄
- ・並行業務処理が困難

情報活用

N日

同時アクセス
不可のため、
次の日に利用

(N+1)日

紙が移動

- ・人が移動するか、原本のコピーを送付
- ・共有は困難。
- 共有のためにはコピーを利用

将
来

電子化文書 業務モデル

ワークフローで業務を実施。最後は紙で出力し、最終承認後(押印)は、スキャンングされて電子文書として保管。

電子文書 業務モデル

ワークフローで業務を実施。紙の特定文書は一部の例外を除いて存在しない。ただ、事前確認や会議資料として、紙を大量消費

オフィス外からも
も利用可能

場所／時間に関係なく
業務遂行が可能

- ・移動不要
- ・並行業務処理が可能

テレワーク
オフィスの
ユビキタス化

テレワーク
推進による
CO²削減
効果

- ・情報共有を実現
- ・場所、時間に関係なくアクセスが可能

JIIMA政策提言におけるCO²削減効果

グリーンオフィス推進政策提言2020年ーCO²削減効果予想

1. 民間オフィス オフィススペース削減	144万トン
2. 民間企業 税務関係書類の保管スペース削減	38万トン
3. 民間オフィス 人の移動削減	18万トン
4. 官公庁自治体 オフィススペース削減	112万トン
5. 官公庁自治体 テレワーク	110万トン
6. テレワーク	220万トン

グリーンオフィス推進による2020年効果予測 合計 → 642万トン

1990年温室効果ガス総排出量12億6100万トンの内、ITC 担当10%(原ロビジョン)1億2610万トン削減目標に対しては、**5.1%**のウエイト。

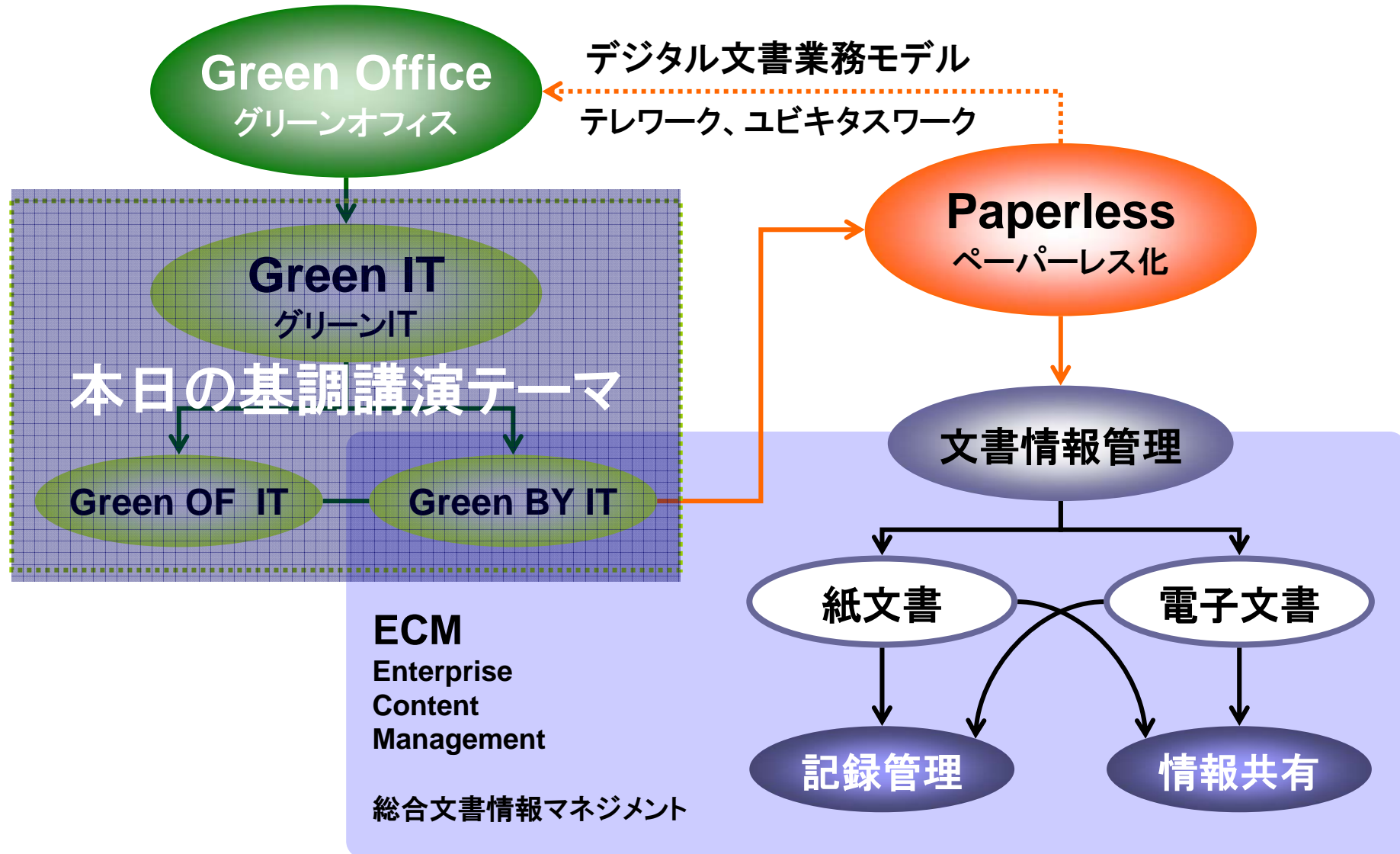
参考

医療分野 診療情報+レセプト ⇒ 30万トンのCO²削減効果

グリーンオフィス推進+医療分野電子化を含むCO²削減効果予測合計 ⇒ 672万トン

1990年温室効果ガス総排出量12億6100万トンの内、ITC 担当10%(原ロビジョン)1億2610万トン削減目標に対しては、**5.3%**のウエイト。

グリーンオフィスはデジタル文書業務モデル



社団法人日本画像情報マネジメント協会 ECM委員会

<http://www.ecm-portal.jp>